

第3節 中南米



総論

中南米地域は、日本にとって、経済的にも、また、ルールに基づくより良い国際社会の構築においても、重要なパートナーである。2011年以降、商品価格の下落や、域外主要国経済の失速などを背景に経済成長は減速しているものの、6兆米ドルの経済規模（ASEANの約2.5倍）、6億人の人口、希少金属（レアメタル）を含めた鉱物資源・エネルギーや食料の生産地を有しており、日本企業の進出も顕著となっている。さらに、法の支配が確立され、ほぼ全ての国で民主主義が根付いており、国際社会における発言力を大きく高めている。約178万人に上る日系人が在住しているなど、日本との人的・歴史的な絆も深く、また、アジア最大の対中南米投資国として長年培われた経済的結びつきもあり、日本と中南米地域は伝統的な友好関係を維持している。

このような重要性を背景に、2014年7月下旬から8月上旬にかけて安倍総理大臣がメキシコ、トリニダード・トバゴ、コロンビア、チリ、ブラジルを訪問し、現職の総理大臣としては10年ぶりの中南米諸国歴訪となった。¹「Juntos¹!! 日本・中南米協力に限りない深化を」と題するスピーチで対中南米政策を打ち

出し、①共に発展（経済関係強化）、②共に主導（国際場裏での連携）、③共に啓発（人的交流、文化・スポーツ交流などの促進）、という対中南米外交の3つの指導理念を掲げた。このほか、日系議員や日系団体、日系企業との懇談なども行い、日本と中南米の関係をあらゆる面で強化し、「日本が中南米に帰ってきた」ことを印象付けた。また、延べ250人を超える経済ミッションも同行し、各国の経済関係者と交流を行った。

経済関係の強化については経済連携協定（EPA）、投資協定などの法的枠組みの構築や、相手国政府との協議などを通じて、現地で事業を展開する日系企業にとって良好なビジネス環境を整備すべく取り組んでいる。また、中南米諸国では、経済成長に伴い、都市交通やエネルギーなどのインフラ需要の拡大が見込まれることから、日本の技術を活用した開発支援を推進している。このほか、資源や食料に富んだ国々との協力関係の深化を通じ、日本への資源や食料の安定供給の確保にも努めている。

国際場裏での連携促進については、持続的経済成長、環境・気候変動問題、核軍縮・不拡散、国連安保理改革などの課題に共に取り

¹ Juntos（ジュントス）＝ポルトガル語で「共に」の意

組みつつ、国際社会で影響力を有するカリコム（カリブ共同体）などの地域共同体との連携と対話を強化している。

人的交流については、要人の往来に加え、

中南米からの若手行政官、日系人などの招へいなどあらゆるレベルでの交流を強化した（詳細については1. (2)「人的交流の強化」参照）。

各論

1 中南米諸国との関係強化と協力

(1) 経済関係の強化

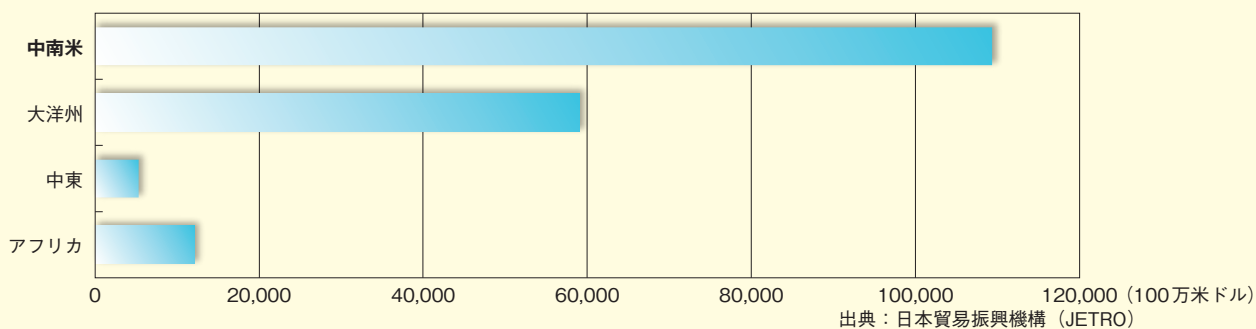
中南米地域は、世界有数の経済規模を有するブラジル（世界第7位、G20加盟国）やメキシコ（世界第15位、G20加盟国）、コロンビア、ペルー、チリ、パナマなどの成長著しい太平洋沿岸国やアルゼンチン（G20加盟

国）、ボリビアなどの食料・鉱物資源の豊富な国々を擁している。その経済的潜在力には世界的な関心が集まっている。

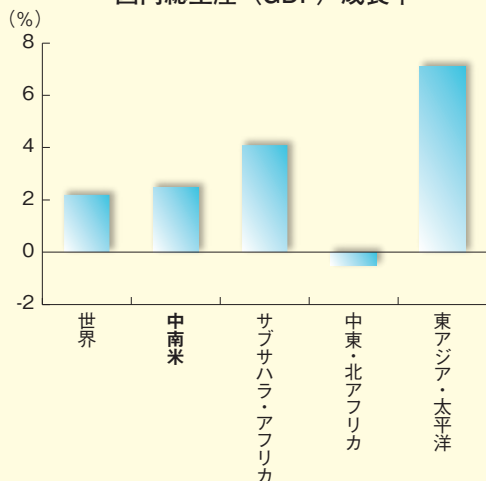
中南米地域経済の成長は、2011年以降、商品価格の下落や域外主要国の経済失速など

経済指標比較

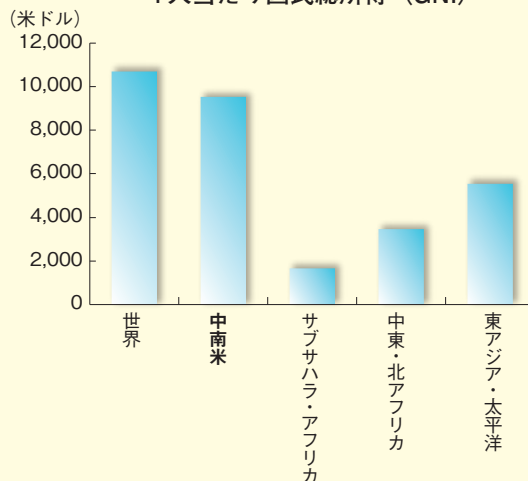
日本の対外直接投資残高（2013年末）



国内総生産（GDP）成長率



1人当たり国民総所得（GNI）



出典：世界銀行（WB）ウェブサイト（2012年の数値）

により減速しているものの、日・中南米貿易額は過去10年間で倍増しており、中南米における日系進出企業数は2014年時点で1,962社となっている。

日本は、中南米各国を共に成長する経済パートナーとして重視し、官民一体となって、日・中南米間の貿易・投資関係の推進や円滑化に取り組んでいる。日本政府は、貿易

促進や進出企業のビジネス環境整備に資するEPA、投資協定などの法的枠組みの構築促進やこのような枠組みに基づく協議などを通じ、日本企業の進出の促進を始め、経済関係の強化を図っている。2014年には、計6回の日・コロンビアEPA交渉が行われるとともに、2015年1月、日・ウルグアイ投資協定への署名が行われた。

(2) 人的交流の強化

秋篠宮同妃両殿下は1月から2月にかけてペルーとアルゼンチン、9月から10月にかけてグアテマラとメキシコを御訪問になったほか、高円宮妃殿下が6月にブラジルとコロンビアを御旅行になった。

中南米には、178万人の日系人が在住するなど、日本との人的・歴史的な絆も深い。こうした背景から、日本政府は中南米地域との人的交流を強化している。上記、安倍総理大臣の中南米訪問に加え、中南米からの若手外交官、日系人などの招へいや、2014年が節目の年であったメキシコ、キューバ、カリコ

ム、ボリビアとの間の各種交流事業などを通じ、あらゆるレベルでの交流を強化した。

著作権の関係上表示できません

グアテマラシティのイシュチュエル民族衣装博物館を御視察になる秋篠宮同妃両殿下（10月1日、グアテマラ・グアテマラシティ 写真提供：AFP=時事）

(3) 中南米諸国の安定的な発展のための貢献

中南米諸国の安定的な発展のためには、持続的成長と政治的安定が課題であるとの認識から、日本は、中南米各国が民主主義を堅持しながら貧困や社会格差是正に向けた適切な努力を行い、安定的に経済成長を遂げることを重視している。このような観点から、教育や保健・医療など生活水準の向上や、中南米各国の持続的な経済成長に資する再生可能エネルギー開発や産業インフラ整備などの分野において、ODAなどを通じて積極的な支援を行っている。さらに、アルゼンチン、チリ、ブラジル、メキシコといった国との間で

は、他の開発途上国を支援するいわゆる三角協力を進めている。

また、ハリケーンや地震などの自然災害に対し脆弱な中南米各国とは、防災面でも多くの協力を行ってきている。生物多様性にも富み、気候変動による自然災害の増大にも関心が高いことから、環境分野においても積極的に協力している。9月には、ホンジュラスにおいて過去10年で最も深刻な干ばつが発生したことを受け、国連世界食糧計画（WFP）への通常拠出金から50万米ドルを支援した。

(4) 地域機構を通じた中南米諸国との協力

中南米地域では、様々な地域統合の試みが漸進的に進んでいる。日本は、地域や国際社会の諸課題に対する連携を強化すべく、太平洋同盟、アジア中南米協力フォーラム（FEALAC）、中米統合機構（SICA）、カリブ共同体（CARICOM）、南米諸国連合（UNASUR）、南米南部共同市場（MERCOSUR）、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）やイベロアメリカ・サミットといった地域機構との連携を強化している。特に、2014年が日・カリブ

交流年であったCARICOMとの間では、7月に第1回首脳会合、10月に第17回事務レベル協議を実施した。また、11月に行われた第4回外相会合では、首脳会合で安倍総理大臣が発表した対カリコム政策（①小島嶼国特有の脆弱性克服を含む持続的発展に向けた協力、②交流と友好の絆の拡大と深化、③国際社会の諸課題の解決に向けた協力）を軸に今後の関係強化を行っていくことが確認された。今後ともこれら地域機構との連携を強化していく。



安倍総理大臣のコロンビア訪問（7月28日～30日、コロンビア・ボゴタ 写真提供：内閣広報室）



日・カリコム首脳会談（7月28日、トリニダード・トバゴ 写真提供：内閣広報室）

日・カリコム関係 ～カリコムの魅力と課題～

カリブ共同体（カリコム）は、人口1,000万人のハイチを除けば、人口が少なく、残りの国を全部合わせても700万人程度に過ぎません。その多くは、小さい島国です。しかしながら、14か国中12か国は英語国、しかも言論が活発な民主主義国であり、高い発信力をもって国際社会で存在感を発揮しています。私は、2014年1月以来、日・カリブ交流年担当大使として、カリコム諸国を回っており、これまでに14か国中12か国を訪問し、各国首脳に安倍総理大臣のメッセージを伝えるとともに意見交換を行ってきました。



日本とカリコム

日本からカリブまでは、片道20時間以上かかり、一寸遠いのですが、不思議と日本人にとって違和感はありません。

まず目に付くのは日本でよく見る箱庭的景色、そして日本車が多いことです。日本車は、右ハンドルで、故障が少ないことが人気の理由とのこと。

そして、魚が新鮮でおいしいことです。日本の無償資金協力により建設された魚の水揚げから冷凍保存・販売、人材育成まで行う水産センターが地元経済に大きく貢献しています。



セントビンセントの水産センター

カリコムを取り巻く厳しい環境

カリブの国でロケした映画は無数にありますが、実際、抜けるような青空、コバルト色の海、白砂の海岸は映画以上にすばらしいです。しかし、国土も経済規模も小さいことから、独立国としての運営が容易でないという現実があります。

カリブのある外相は、“For us, natural disaster is a national disaster.”（我々にとり、自然災害は国家をゆるがす災害である）と言いました。ハリケーンの一撃で2年分のGDPを上回る損害を受けたり、短時間の集中豪雨でも、日本であれば70-80兆円に相当する甚大な被害を受けたりします。農地として使える土地が少なく食料を輸入に頼らざるを得ません。電力も殆ど火力発電のため、燃料輸入が国際収支を圧迫し、国家財政も苦しくなっています。電力料金も高く、バルバドスでは4人家族で月額2万円程度と聞きました。多くの国では観光収入に大きく依存していますが、2008年のリーマン・ショックで大打撃を受け、その後の回復は思わしくありません。

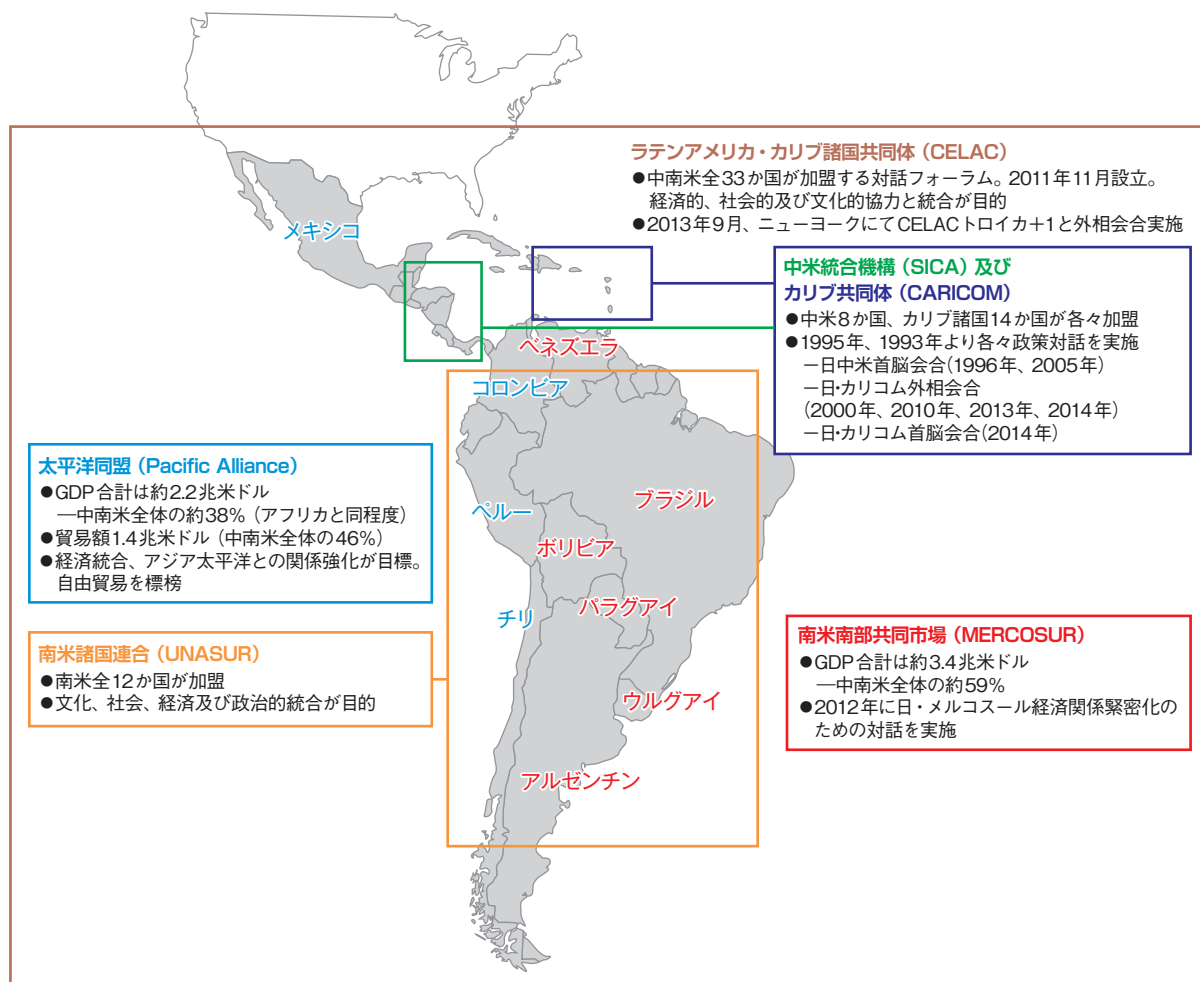


ラモター・ガイアナ大統領（右）との会談にて

こうした自然条件や国際経済の影響など、自分の力では如何ともしがたい問題に取り組むためには、国際社会の協力がが必要です。特に、防災、再生可能エネルギー・省エネ、食料生産において、経験と技術を有する日本が果たすべき役割は大きいものがあります。

日・カリブ交流年担当大使 島内 憲

進展する地域統合との関係強化 中南米における地域機構



2 中南米地域情勢

(1) 政治情勢

2014年には、エルサルバドル、コスタリカ、パナマ、コロンビア、ブラジル、ボリビア、アンティグア・バーブーダ、ウルグアイ、ドミニカ国で大統領選挙や総選挙が行われた（政権交代の詳細については87ページの図「2014年の主な出来事（各国・地域別）」参照）。6月から7月にかけて国際サッカー連盟（FIFA）ワールドカップ（W杯）が開催されたブラジルでは、10月に大統領選挙が

行われルセーフ大統領が再選された。

また、地域統合機構においても、1月末に第2回CELAC首脳会合、6月及び12月にSICA首脳会合、12月にイベロアメリカ・サミット、UNASUR首脳会合など様々なハイレベル協議が行われた。

12月には米国とキューバ外交関係再構築に向けた動きが発表され、今後の動向が注目される。

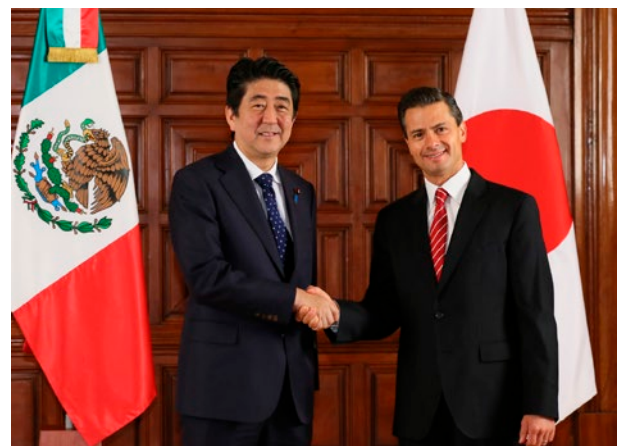
(2) 地域経済情勢

2014年、中南米地域全体としての経済成長率は1.1%となり、2009年以来最も低い成長率となったが、パナマとドミニカ共和国が6.0%、ボリビアが5.2%、コロンビアが4.8%、ニカラグアが4.5%など、一部の国では高成長を記録した。一方、失業率は比較的低く(6.1%)、2014年は減速したものの経済が安定的に成長していることにより、中間層の拡大と貧困層の漸次縮小が進んでおり、格差の是正が進んでいる。

中南米地域最大の経済規模を擁するブラジルの成長率は0.3%と、中南米諸国の平均値(1.1%)より低くなる見込みである。しかし、2016年のリオデジャネイロ夏季オリンピック・パラリンピックを控え、今後、インフラを中心とする内需拡大と経済活性化が見込まれる。中南米地域第2位の経済規模を誇るメキシコは米州市場への玄関口でもある。自動車関連分野を中心に、日本を始め世界各国から企業進出が相次いでいる。また、ペニャ・ニエト政権は、財政やエネルギーなどの長年の諸課題についての改革に精力的に取り組んでおり、国内経済の活性化や海外からの投資拡大を目指している。

中南米地域は、世界でも有数の食料供給地域であるとともに重要資源の供給地である。銀、銅、亜鉛、鉄鉱石、石油などの重要資源や、電気自動車などの電池用として今後大幅な需要増が見込まれるリチウムを始めとする希少金属(レアメタル)の主要産地でもある。近年は、シェール・ガスの主要埋蔵地として、アルゼンチン(埋蔵推定量世界第2位)、メキシコ(同第4位)にも注目が集まっている。原油の確認埋蔵量世界1位のベネズエラの経済状況、中南米地域における一次産

品価格の変動の影響や一部の国における資源の国家管理強化といった懸念材料はあるものの、中南米諸国の持つ潜在力は高い。また、パナマ運河は2015年の拡張工事完了を予定しており、引き続き世界物流の要衝であり続けることが見込まれている。



ペニャ・ニエト大統領と安倍総理大臣の首脳会談(7月25日、メキシコ 写真提供:内閣広報室)



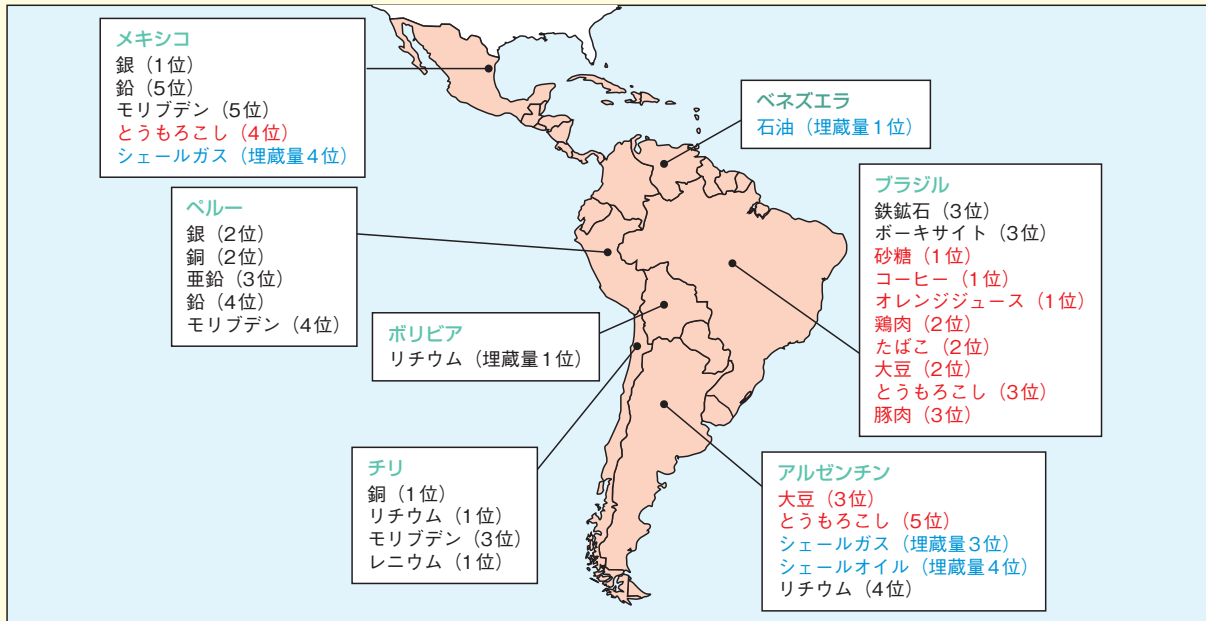
ルセーフ・ブラジル大統領と安倍総理大臣の首脳会談(8月1日、ブラジル 写真提供:内閣広報室)



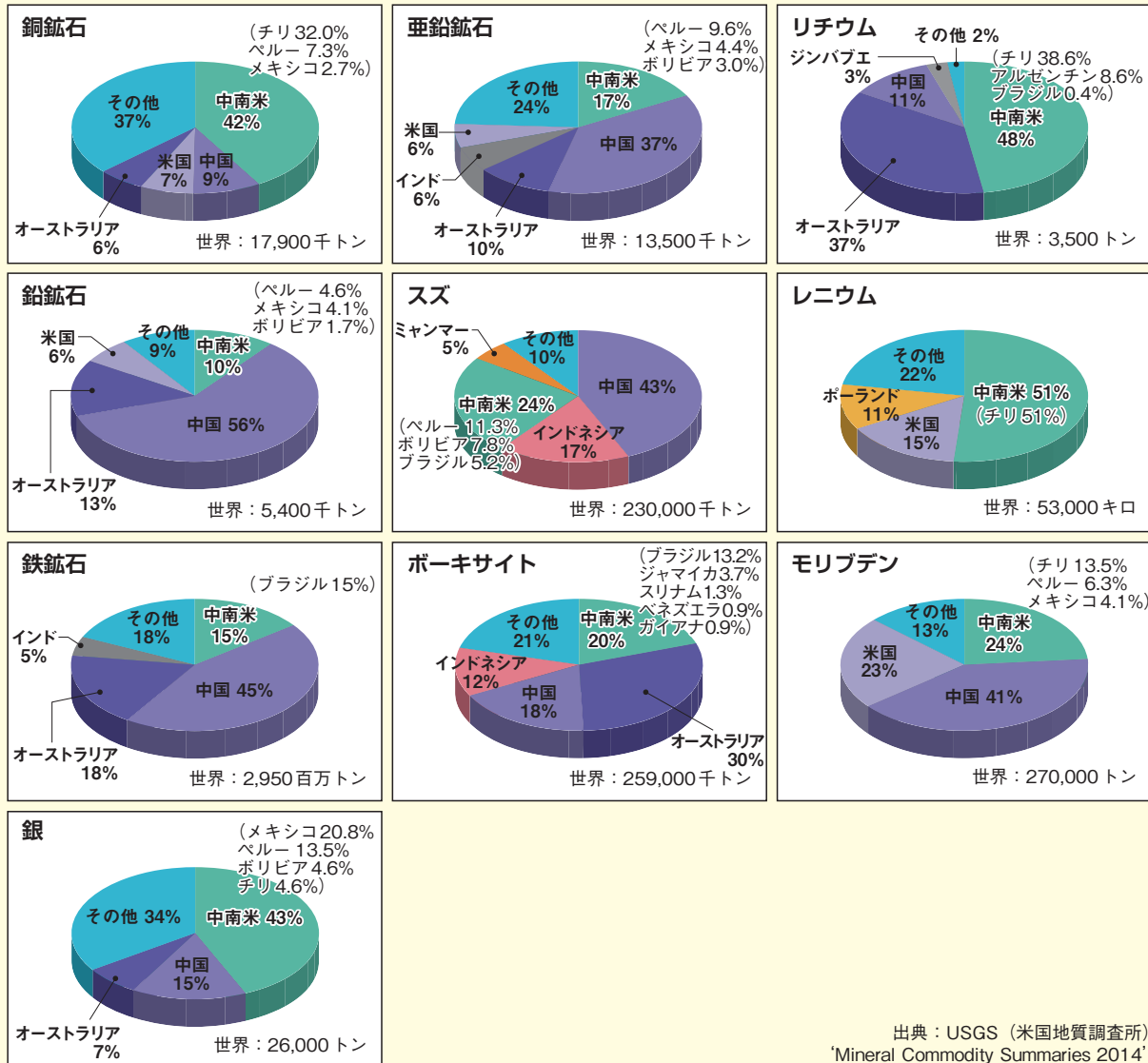
第4回目・カリコム外相会合(11月15日、東京)

2014年中南米諸国の資源・エネルギー・食料生産量について

鉱物資源・エネルギー・食料（カッコ内は世界における順位）



鉱物資源（生産量）（2013 予測値）



出典：USGS（米国地質調査所）
‘Mineral Commodity Summaries 2014’

2014年の主な出来事（各国・地域別）

メキシコ（ペニャ・ニエト大統領）

- ・日メキシコ交流年（支倉常長使節団出帆・メキシコ上陸400周年（2013年及び2014年））
- ・安倍総理大臣のメキシコ訪問（7月）
- ・秋篠宮同妃両殿下御訪問（10月）

キューバ（ラウル・カストロ国家評議会議長）

- ・日・キューバ交流400周年
- ・米国との外交関係再構築に向けた議論を開始することで合意したことを発表（12月）

CARICOM 諸国

- ・アンティグア・バーブーダ：総選挙実施。野党・アンティグア労働党（ALP）が勝利、ブラウンALP党首が首相就任（6月）
- ・安倍総理大臣のトリニダード・トバゴ訪問（7月）
- ・第1回日・カリコム首脳会合（於：トリニダード・トバゴ）（7月）
- ・第17回日・カリコム事務レベル協議（於：ガイアナ）（10月）
- ・第4回日・カリコム外相会合（於：東京）（11月）
- ・ドミニカ国：総選挙実施（12月）。与党（ドミニカ労働党）が勝利。スケリット首相が再任（12月）

中米

- ・エルナンデス・ホンジュラス大統領が大統領就任（1月）
- ・アルバレス・デ・ソト・パナマ外相訪日（3月）
- ・エルサルバドル：大統領選挙実施（3月）。与党（ファラブンド・マルティ民族解放戦線（FMLN）のサンチェス・セレン氏が大統領に就任（6月）
- ・コスタリカ：大統領選挙実施（4月）。市民行動党（PAC）のソリス氏が大統領に就任、初のPAC政権が誕生（5月）
- ・パナマ：大統領選挙実施（5月）。野党（パナメニスタ党）のバレラ氏が大統領に就任（7月）
- ・日・パナマ首脳会談（於：ニューヨーク（米国））（9月）
- ・秋篠宮同妃両殿下グアテマラ御訪問（9月）

ブラジル（ルセーフ大統領）

- ・高円宮妃殿下御旅行（6月）
- ・FIFAワールドカップ・ブラジル大会の開催（6～7月）
- ・安倍総理大臣のブラジル訪問、日・ブラジル首脳会談（8月）
- ・大統領選挙の結果、労働者党のルセーフ氏が大統領に再任（2015年1月）

コロンビア（サントス大統領）

- ・大統領選挙実施（6月）。国民統一党のサントス大統領が再任（8月）
- ・高円宮妃殿下御旅行（6月）
- ・安倍総理大臣のコロンビア訪問、日・コロンビア首脳会談（7月）
- ・日・コロンビアEPA交渉（2014年に計6回の交渉を実施）

ボリビア（モラレス大統領）

- ・日・ボリビア外交関係樹立100周年
- ・石原外務大臣政務官訪問（5月）
- ・大統領選挙及び国会議員選挙を実施（10月）。社会主義運動（MAS）党のモラレス氏が就任（2015年1月）

ペルー（ウマラ大統領）

- ・秋篠宮同妃両殿下御訪問（1月）
- ・日・ペルー首脳会談（於：北京（中国））（11月）

パラグアイ（カルテス大統領）

- ・カルテス大統領訪日、天皇陛下御会見、日・パラグアイ首脳会談（6月）

チリ（バチェレ大統領）

- ・大統領選挙実施（2013年12月）。社会党のバチェレ氏が大統領に就任（3月）
- ・安倍総理大臣のチリ訪問、日・チリ首脳会談（7月）

ウルグアイ（ムヒカ大統領）

- ・石原外務大臣政務官訪問（5月）
- ・日・ウルグアイ投資協定交渉（11月に実質合意）
- ・大統領選挙実施（11月）。バスケス前大統領が就任（2015年3月）

アルゼンチン（フェルナンデス大統領）

- ・秋篠宮同妃両殿下御訪問（1月）


 Column

ブラジルの日系人女性の活躍 ～「ブラジルは女性が強い国」って本当???～

世界各地の日系人の方々は、様々な形で日本と各国の関係構築にも貢献されています。約160万人と世界最大の日系社会を有するブラジルで、ホテル業界を代表する女性経営者として活躍される青木智栄子さんのお話を紹介します。

私は7歳の時に両親とともにブラジルに移住、帰化して以来、「ブラジル人女性」として人生の大半を過ごし、現在は、ブルーツリー・ホテルズ（この名前は私の苗字、青木から取りました）というホテルチェーンを運営しています。

私のような女性の企業経営者というのはブラジルでは珍しくありません。私の昔からの友人で、年商1兆円に迫ろうとしているブラジル家電量販チェーンのオーナー社長であるルイーザ・トラジャーノもその一人ですが、私は彼女が旗振り役を務める「ムリエーレス・ド・ブラジル（＝ブラジルの女性達）」というグループで、官民一体による女性社会進出支援活動にも力を入れています。

このグループのもう一人の大切な仲間であり、官側を代表するのがブラジル初の女性大統領であるジルマ・ルセーフ大統領です。つい先日も「女性らしい視点で屈託のない意見を聞きたい」ということで、首都ブラジリアにこのグループの女性経営者80人が招待され、3人の女性大臣と共に、ブラジルの教育水準の向上、女性経営者・役員の育成、慈善活動方途などについて意見交換をしてきました。女性ばかりの集まりではありますが、決して男性に対抗するような思想のものではなく、ブラジル社会全体がより良くなるよう、人を育てる・活かすという女性的な強みをベースに活動しています。

世界最大の日系社会があるブラジルでは、もちろん「日系人女性」も様々な分野で活躍しています。昨年8月、安倍総理大臣がブラジルにいらした際には、そんな活躍する日系人女性達を我が家にお招きし、安倍総理大臣夫人を囲んで昼食（せっかくの機会ですのでブラジルの郷土料理であるフェイジョアーダ（黒豆と豚肉の煮込み料理）を出してみました）をとりながら、ブラジルで活躍する女性の社会進出について意見交換させていただきました。

よく「男性は競争を好み、女性は協調を好む」と言われますが、イケイケドンドンの時代が終わった今、女性の「競争を避け、仲間を巻き込み、みんなで一緒により良い場所を目指す」という考え方は、世界の平和にとって、とても大切なもののように思います。ブラジルはその歴史上、戦争とは縁の遠い国ではありますが、今思えば、国内あちこちで「女性」が活躍していることも、もしかしたら関連性があるのかもしれませんが。

ブラジルでは「結婚相手にしたい理想的な女性像の世界一は日本人」とも言われますが、そんなポテンシャル高き日本人女性ですから、家庭でも社会でも大活躍し、公私共に「世界一の理想的な女性像」として、世界中の女性のお手本になって頂けると思い、希望で胸が膨らみます。

2015年は日ブラジル外交関係樹立120周年。今回ご紹介したような「官民一体となった女性活躍支援」なども含めて、ブラジルには、日本の皆様にとって参考になるものも多々あるかと思えますので、ぜひ多くの方々に興味を持って頂き、そして足を運んでいただけたら嬉しく思います。

ムイント・オブリガーダ！（どうもありがとうございました！）

ブルーツリー・ホテルズ&リゾーツ 代表取締役社長 青木 智栄子



食事中はルセーフ大統領（右）も私（左）も、トラジャーノ社長（中央）が成功したダイエット話に夢中!!



安倍総理大臣夫人とブラジルで活躍する日系人女性との昼食会